

取扱いの趣旨

嫌気性培養は、酸素が存在する環境では増殖できない偏性嫌気性菌を検出するための検査であり、酸素が存在する部位から採取した検体を用いて実施した場合の診断としての正確性は低いことから、肺結核等に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年11月29日》

369 嫌気性培養加算の算定について

○ 取扱い

① 次の傷病名に対するD018の注1に規定する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められる。

- | | | |
|---------------------|-----------------------------------|------------|
| (1) 肺膿瘍、肺化膿症（疑い含む。） | (2) 誤嚥性肺炎、嚥下性肺炎 | (3) 咽頭周囲膿瘍 |
| (4) 扁桃周囲膿瘍 | (5) 偽膜性腸炎、クロストリジウム・ディフィシル腸炎（CD腸炎） | |
| (6) 肛門周囲膿瘍 | (7) 腹腔内膿瘍 | (8) 子宮付属器炎 |
| (9) 子宮内膜炎 | (10) 子宮内感染症 | (11) 子宮頸管炎 |
| (12) ダグラス窩膿瘍、骨盤腹膜炎 | (13) 外陰部膿瘍、バルトリン腺膿瘍 | (14) 産褥熱 |
| (15) 眼内感染症 | (16) 深在性皮膚感染症 | (17) 深在性膿瘍 |
| (18) 蜂窩織炎 | | |

② 次の傷病名に対するD018の注1に規定する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められない。

- | | | |
|--|----------------|--------------|
| (1) 肺結核（疑い含む。） | (2) 急性腸炎、急性胃腸炎 | |
| (3) 薬剤性腸炎（偽膜性腸炎、クロストリジウム・ディフィシル腸炎（CD腸炎）を除く。） | | |
| (4) 細菌性膣炎、膣炎、外陰炎 | (5) 滲出性中耳炎 | (6) 表在性皮膚感染症 |

○ 取扱いを作成した根拠等

嫌気性培養は、酸素が存在する環境では増殖できない偏性嫌気性菌を検出するための検査である。偏性嫌気性菌が存在する部位（嫌気性環境）から採取した検体を用いて嫌気性培養を実施した場合に有用であり、対象となる傷病名は多岐にわたる。一方、酸素が存在する部位から採取した検体を用いて実施した場合の診断としての正確性は低い。

以上のことから、上記①の傷病名に対する嫌気性培養加算の算定は、原則として認められるが、上記②の傷病名に対する算定は認められないと判断した。

グラフの見方

1 棒グラフ(該当レセプトの審査結果)

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

審査結果の概要

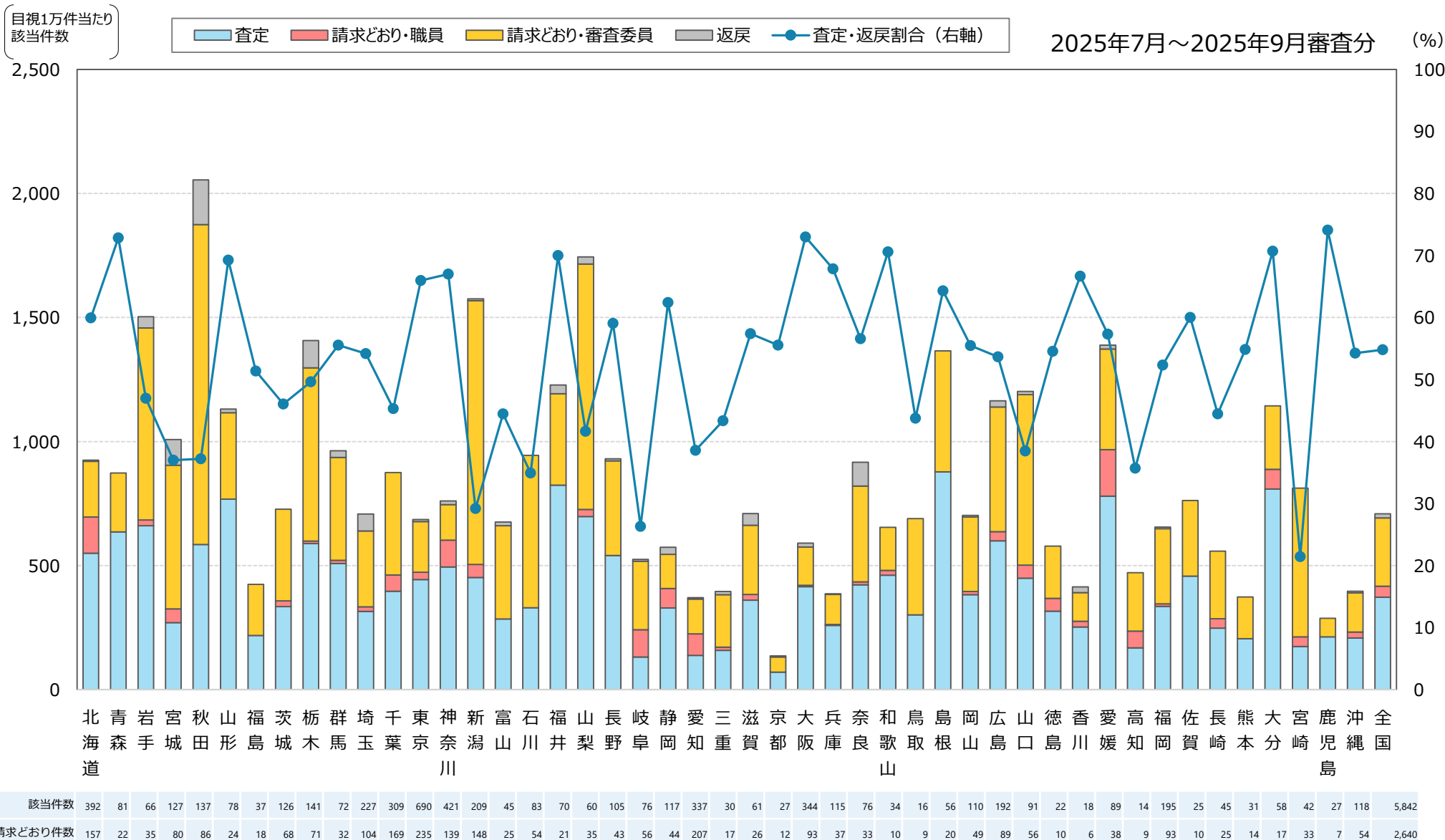
➤ 全国の査定・返戻割合 54.81%

➤ 検証対象都道府県 47

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	宮崎、岐阜、新潟、石川、高知、宮城、秋田、山口、愛知、山梨、三重、鳥取、富山、長崎、千葉、茨城	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	愛媛、北海道、岐阜、神奈川、愛知、大分、静岡、高知、千葉、宮城、山口、新潟、徳島、宮崎、長崎、広島	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	秋田、新潟、山梨、岩手、栃木、山口、石川、宮崎、宮城、広島、島根、群馬、千葉、愛媛、鳥取、奈良	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	5,842件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	3,202件
検証を必要とする審査	請求どおり	2,640件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数